



2014.12.11

No.49

芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆
連絡先 090-7118-2312

「九条の会」全国集会&パレード開催

安倍内閣の改憲暴走を許さない！

11月24日「九条の会」としては初めての全国集会&パレードに各地から2500名が参加した。会場の東京日比谷公会堂には開会2時間前から整理券を求める人達が長蛇の列。超満員の盛況で、入りきれない人は屋外の大型スクリーンに聞き入った。

集会は「非戦を選ぶ演劇人の会」による朗読劇「9条を好きと言えなくなって・・・」で幕を開けた。TV等でお馴染みの高橋長英さんや三田和代さん達が軽妙なやり取りの中、「最近の社会状況では9条を話題にしづらくなっているが、平和の願いを実現するためには身近な人々に9条を好きと言いましょ」と訴えた。次いで九条の会呼びかけ人の奥平康弘さん、澤地久枝さんから挨拶があった。奥平さんは「安倍さんのいう積極的平和主義はまやかして、日本が戦後培ってきた平和主義をあたかも自分達の財産のように悪転用している。真の平和主義を実現するため、我々の政治的努力が試されている。」と強調。澤地さんは「沖縄の知事選に学び、衆院選では『自衛隊は武力を使わない』を一致点として勢力を結集できないか」とよびかけ、「集团的自衛権容認が閣議決定されるまで事態が来てしまったが、私は生きている限り決してあきらめない」との力強い言葉には会場からひととき大きな拍手が続いた。

その後、北海道を始め10の地域・分野九条の会から様々な工夫をこらした活動の報告があった。中でも「みやぎ青年9条の会」の、「若者は政治に無関心と言われるが決してそうではない。限られた情報の中、考えるきっかけがないだけ。平和への思いに住んでいる場所や年齢は関係ない。若者も危機感を持ち活動している。」との発言には共感するとともに、若者の参加が少ないと言われる「九条の会」の今後の運動拡大への一つのヒントを得た思いだ。

最後に、小森陽一事務局長が「衆院選を改憲の動きを阻止する運動の出発点にしよう。集团的自衛権行使容認の閣議決定撤回を求める運動を継続していくとともに、自衛隊と米軍の一体化を目的とする日米ガイドライン（日米防衛協力の指針）改訂や集团的自衛権行使のための安全保障法制整備を許さない草の根の運動を全国7500余の『九条の会』が中心となって更に大きく展開していこう」と締めくくった。

<裏に続く>

